

**「天の御国の弟子」(要旨)**  
**聖書箇所：マタイの福音書13章44~52節**

**【1】 畑に隠された宝、真珠の商人**

前回の毒麦のたとえに続き、イエスは天の御国を「畑に隠された宝」、「良い真珠を探している商人」にたとえました。まず畑に隠された宝を見つけた人は、予期せず宝を見出した者として描かれています。その人は宝を見つけた喜びを押し隠し、畑を自分のものとするため全財産をつぎ込みます。

次に登場する真珠の商人は、前者とは異なり良い真珠を見つけるために探し回っていました。目的の真珠を見出した商人は、それを手に入れるため全財産を売り払いました。二人に共通していることは、「畑」や「真珠」を手に入れるために自分の持ち物すべてを売り払ったということです。「天の御国」を得るためにすべてを犠牲にしたとも言えます。「畑に隠された宝」の価値を知らない人は、全財産を費やして畑を購入した人を滑稽に思うでしょう。真珠の商人の行動も同様です。その真珠がいくら高価なものであっても、別の場所で別の機会に手に入れることのできる真珠であれば、全財産を費やした商人の行動は常軌を逸しています。しかし彼らはそうした「犠牲」を「犠牲」と思いませんでした。それに勝る喜びゆえに、今まで大切にしてきたものですら容易に放棄したのです。

▷私たちは「天の御国」にどれほどの価値を見出しているでしょうか。

**【2】 あらゆる種類の魚を集める網**

イエスは天の御国を「あらゆる種類の魚を集める網」にたとえました。海にはあらゆる種類の魚が生息しています。カツオ、マグロ、アジのように広大な海域を泳ぎ回る回遊魚もいれば、メバル、カサゴ、アイナメのように狭い範囲の海底にいる根魚もいます。このたとえに登場する網は海面から海底にかけて垂直に吊す大きな地引網のことです。その網を2艘の船が岸辺から引いて漁をし

ます。そのためあらゆる種類の魚を一網打尽に集めることができます。岸に引き上げた後、魚の選別を行います。毒麦のたとえの「収穫の日」と同様、「この世の終わり」に正しい者たちの中から悪い者どもをより分けるのです(マタイ13:49)。その時には、どんなに激しく不満を訴えても処遇が変わることがありません。「まことに正しい者の道は主が知っておられ 悪しき者の道は滅び去る」(詩篇1:6)のです。

▷横にいる人々の振る舞いによって自分の生き方を変えるのではなく、主を恐れ、みことばに信頼して歩むことができますように。

**【3】 一足飛びに行かずとも**

イエスは「天の御国の奥義」(マタイ 13:11)を伝える時、段階を踏んで話しました。まず群衆にはたとえを用いました。次に弟子たちにはたとえの意味を説き明かしました。イエスのたとえとその説き明かしを理解できた弟子たちは、「天の御国の弟子となった学者」と呼ばれました(マタイ 13:52)。

イエスの弟子たちは「天の御国の奥義」について聞いてもすぐに理解できませんでした。イエスからたとえを何度も聞きその意味を説き明かされることを通して徐々に理解を深めていったのです。やがてたとえによらずともイエスの語られている意味を理解するように成長しました(参照:ヨハネ 10:6,16:29)。そして、イエスは「御国の弟子」たちを福音宣教に派遣したのです(マタイ 28:18-20)。

▷私たちの成長の鍵は、日々みことばに聞き、祈り、そしてみことばに応答する営みです。

